

【本時の見どころ】

地域づくりに積極的に関わっていく態度を育てるために、「相良村の創生」のための戦略プランづくりの学習を展開します。相良村の政治を多角的・多面的に考察することで、現在の課題、そして将来への展望を見だし、持続可能な社会づくりを考察します。また、G T（相良村長）の話から、我が故郷への愛情を高め、地方自治の大切さを考えさせたいと思います。

社会科（公民的分野）学習指導案

日時 平成28年11月29日

場所 相良村立相良中学校 3年1組

男子10名 女子14名 計24名

指導者 相良村立相良中学校 教諭 志牟田 靖

1 単元名 「地方自治と私たち」（東京書籍 P102~116）

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領（3）イ「民主政治と政治参加」の中の地方自治に関する内容を取り出し、構成したものである。地方公共団体の政治の仕組みについて理解させるとともに、住民の権利や義務に関連させて、地方自治発展に寄与しようとする住民としての自治意識を育てることをねらいとしている。

そこで、単元を貫く課題として「相良村の政治的課題を追究し、相良村の「創生戦略プラン」を考えよう。」を設定し学習を展開していく。単元の前半では、前単元で扱った国の政治の仕組みでの既習事項と関連を図りながら、国の政治と地方自治の仕組みの違いをとらえさせ、地方の政治を概観する。単元の後半では、身近な地方公共団体である相良村の行政を教材として取り上げる。

人吉・球磨地域は、鎌倉時代から明治時代までの約700年に及ぶ長い間、相良氏一族に治められた、全国でも珍しい地域であり、昨年4月に日本遺産に認定された。その理由として、領主から民衆までが一体となった町づくりの精神が形成され、社寺や仏像群、神楽等をともに信仰し、楽しみ、守る文化が育まれたこと。さらに、進取の精神を持ってきたたかに外来の文化を吸収し、独自の食文化や遊技、交通網が整えられたことなどが挙げられる。「保守」と「進取」双方の精神から昇華された文化の証が、集中して現存する地域は他にはなく、日本文化の縮図を今に見ることができるのが、ここ人吉・球磨地域である。

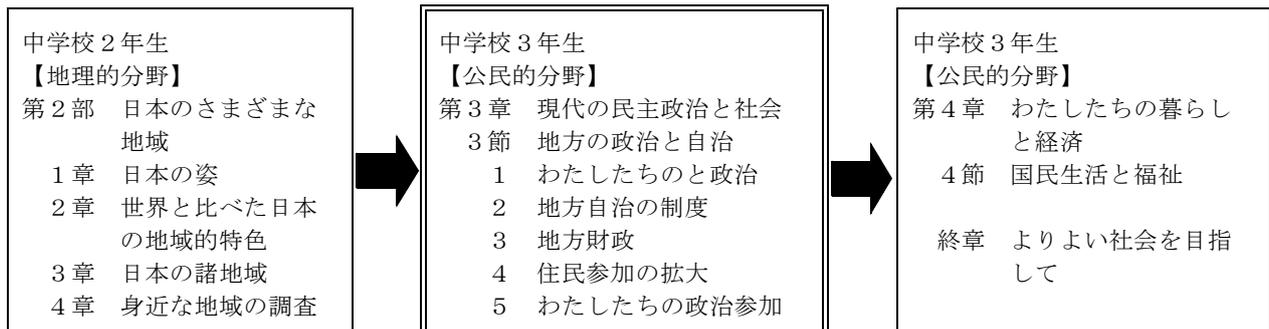
しかし、このような希有な歴史をもつ人吉・球磨地域の中で、とりわけ相良村は、近年、産業の振興、財政、福祉、防災などさまざまな課題を抱えている。それに伴い過疎化の進展が著しい。このような相良村の課題を多面的・多角的に考察し、地方自治の形成に参画していくかを考えることは、生徒たちにとって、これからの日本を担っていく主権者の一人として、また、相良村で生活する住民の一人としての自覚を育み、地域づくりに積極的に関わっていく態度を育てる上で大変意義がある単元であると考えられる。

【研究テーマとの関連：教材選択の条件】

平成27年12月に出された「相良村総合戦略」を教材化することで、過疎化、少子高齢化、日本遺産を活用した観光産業の振興などの多様な視点から考察が可能となり、より深く、ふるさと相良村の未来を考えさせていくことができると考える。このような観点から、本教材は「適合性」「時事性」「課題性」を含む教材になると言える。

(2) 系統観

本単元における系統は以下の通りである。



小学校では、第5学年時に我が国の国土や自然の様子、産業、社会の変化について、地図や地球儀、資料などを活用して調査し、考察したことをまとめる学習を行っている。また第6学年時に、国民生活には、地方公共団体や国の政治の働きが反映していることを学習している。

小学校での既習事項を生かし、中学校第2学年の地理的分野では、日本や自らが生活している地域の特色を学んでおり、その学習内容が本単元につながっている。本単元を通して、地方自治について調査・考察してまとめ、練り上げることで身につけた学習内容が、今後の社会科の学習に生かされていくと考えられる。

(3) 生徒観

社会科の学習において、全体的に社会科学習への興味・関心・意欲は高い。下に示した本時に関わる能力の意識調査では、「はい」と答えた生徒が多いものの、まだまだしっかりとした力は培われていない。自分の考えを積極的に発言する生徒は少なく、これから社会科授業に限らず、教育活動全体を通じて表現活動の育成に力を入れていかなければならない。

- | | | | |
|---|------------------------------|--------|--------|
| 1 | さまざまな資料を分析し、読み取ることができますか。 | はい 21名 | いいえ 1名 |
| 2 | 仲間と進んで考えながら、問題を解決することは好きですか。 | はい 20名 | いいえ 2名 |

本単元にかかわる生徒の実態は、次の通りである。

- | | | |
|---|--------------------------------|--|
| 1 | 相良村は好きですか。また、それはなぜですか。 | はい (21名) ・自然が豊かだから ・川辺川があるから ・施設が整っているから
いいえ (1名) ・知っている人が多すぎるから |
| 2 | 将来は、相良村に住みたいと思いますか。またそれはなぜですか。 | はい (8名) ・環境がいいから ・学んだことを生かしたい ・落ち着くから
・地元を盛り上げたい
いいえ (14名) ・不便だから ・都会に住みたい ・相良村の良さを再確認したい
・仕事がない ・ショッピングモールがない ・レジャー施設がない
・いろいろなところを知りたい |
| 3 | 相良村の魅力は何ですか。 | 豊かな自然 川辺川 お茶 |
| 4 | 相良村の課題は何だと思えますか。 | 過疎化 (3) 少子高齢化 (8) ポイ捨て (4) 交通手段がない (2) 暗くなる (1)
観光がない (1) お店がない (1) レジャー施設がない (1) わからない (1) |
| 5 | 将来 (50年後)、相良村はどうなっていると思えますか。 | ○店が増えている 子どもたちが元気に暮らしている 若者が増えている
観光がさかんになっている 安全になっている 活気のある村 (11名)
●少子高齢化が進んでいる 過疎化が進んでいる 合併している (11名) |
| 6 | 「日本遺産」をどの程度知っていますか？ | 言葉だけ (13名) 内容もだいたい (8名) 知らない (1名) |
| 7 | 相良村の文化財で知っているものは。 | 十島菅原神社 (7名) 雨宮神社 (6名) 知らない (10名) |
| 8 | 人吉球磨の文化財で知っているものは。 | 青井阿蘇神社 (16名) 知らない (6名) |

アンケートの結果を分析すると、郷土を愛する心はあるものの、やはりさまざまな理由で、将来は他地域へ出たいと考えている生徒が多い。また、相良村の課題に関しては、「過疎化」「少子高齢化」というような切実な課題を痛感している生徒が少なく、村政に関する意識の低さが感じられる。相良村の魅力は、ほとんどの生徒が豊かな自然や川辺川をあげている。将来の相良村を想像させると、明るい見通しを持った生徒が予想以上に多く、生徒の中での今の相良村の活気が感じられる。また「日本遺産」や相良村や球磨人吉の文化財に関しては意識が低い傾向にある。過疎化や少子高齢化の問題をしっかりと見つめた上で、生徒たちに夢や希望にあふれた相良村の将来をしっかりと考えさせたい。

(4) 指導観

現在の社会における政治状況を観てみると、政党の集散離合や参議院総選挙・東京都知事選挙など、めまぐるしく政局は変化している。さらに公職選挙法の改正に伴い、選挙権が18歳に引き下げられるなど、政治に対して常に関心を持った生活が望まれている。と同時に、現在の中学生においては、政治に関する学習の充実が、これまで以上に重要になってきている。

このように変化が著しい社会の中においては、学んだ知識を記憶しただけでは意味をなさない。重要なことは、獲得した知識を基に課題を発見し、その課題を筋道をたてて理論的に考察したり、その課題を解決する力を身につけたりすることである。これが、社会科のねらいである公民的資質の育成であると考えられる。

また、生徒の実態から、相良村に対する愛情はあるものの、村政に対する意識が低いという実態をふまえて、本単元では、地方自治の基礎的・基本的事項をしっかりと押さえた学習を基盤に、身近な地域である相良村の政治を、さまざまな資料をとおして、多角的・多面的に分析し、考察し、判断することで、ふるさと相良村をよりよくしていこうとする態度を育てたい。

さらに、昨年の2015年4月に創設された「日本遺産」に、人吉・球磨の相良藩700年のストーリーが認定された。地域づくりの視点から、この「日本遺産」を学び、それを生かした地域の活性化にも着目させるとともに、郷土に対する愛情を育むことができる授業を展開したい。

本時では、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方などを踏まえて、平成27年12月に出された「相良村総合戦略」を教材化し、日本遺産を活用した「相良村の創生戦略プラン」をとおした授業を展開する。言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力の育成を図りたい。また、班活動を取り入れ、班員で進んで考えながら、問題を解決を図るアクティブラーニングを取り入れることで、主体的な活動を促したい。

3 単元の目標

社会的事象への 関心・意欲・態度	自分たちが住む地域の政治に関心を持ち、身近な政治について調べることを通して、自分たちのできることを意欲的に考え、提案したり、政治参加の方法についてたり、地域の住民の一人として地方自治の在り方について考察させる。
社会的な 思考・判断・表現	自分たちが住む地域の特色や課題について調べ、解決のための方策について話し合い、自分の考えをレポートや討論での発言、提言などの形で表現させる。
資料活用の技能	地域の課題や地方財政の変化について、資料を収集・選択し、複数の資料を比較して読み取ったり、その結果を図表などにまとめさせる。
社会的事象についての 知識・理解	地方自治の考え方と仕組みや働きについての知識を身につけ、地方自治の課題について理解させる。

4 単元の指導計画と評価（規準）（全9時間 本時8/8）

次	時	主な学習活動	評価
単元を貫く課題：相良村の政治的課題を追究し、「相良村総合戦略」プランを考えよう。			
1	1	○村長からのビデオレター①から、地方自治における課題意識を持つ。 ○地方公共団体の種類や役割について、国と比較しながら理解する。	○地方自治について興味関心をもつ。 【関心・意欲・態度】 ○地方公共団体の仕事や地方分権の考え方について理解している。 【知識・理解】
2	1	○直接請求権について、国民主権や地方自治の観点を踏まえて考える。 ○地方議会の制定する条例と、二元代表制の仕組みを中心に、地方自治の仕組みについて理解する。	○地方公共団体の住民に直接請求権が認められている理由について、国民主権や住民自治の観点から、多面的・多角的に考えている。 【思考・判断・表現】 ○地方自治の仕組みを、地方議会と首長の役割を中心に理解している。 【知識・理解】

3	1	<p>○相良村が抱える財政上の課題について考える。</p> <p>○相良村の財源とその使い道について、統計資料をもとに理解する。</p>	<p>○地方財政の課題と今後の在り方について、多面的・多角的に考えている。 【思考・判断・表現】</p> <p>○地方財政の歳入と歳出、地方財政の課題について、統計資料を基に的確に読み取っている。 【技能】</p>
4	1	<p>○今後、自分がどのように相良村の地方自治に関わっていくか考え、主権者としての意識を持つ。</p> <p>○住民参加にはさまざまな方法があることを理解する。</p>	<p>○自分と地域の政治との関わりについて、多面的・多角的に考察している。 【思考・判断・表現】</p> <p>○住民の政治参加の方法について、そのあらましを理解している。 【知識・理解】</p>
5	1	<p>○相良村の課題を分析し、課題に対する取組を考察する。</p>	<p>○相良村の課題を把握し、その解決のための対策を考えることができる。 【思考・判断・表現】</p>
6	1	<p>○村長からのビデオレター②をきっかけとして、相良藩700年の歴史について学び、理解する。(GT招聘)</p>	<p>○相良藩の歴史から地方自治の在り方を考察している。 【思考・判断・表現】</p>
7	2	<p>○相良村にある日本遺産に認定された歴史文化遺産の「保全」・「活用」・「発信」に関する戦略プランを考える。</p>	<p>○地域の実態にあった戦略プランを考えることができる。 【思考・判断・表現】</p>
8 (本時)	1	<p>○各班で相良村の歴史文化遺産の「保全」・「活用」・「発信」に関する戦略プランのプレゼンを行い、より効果的な相良村総合戦略プランをののための意見交流を行う。</p>	<p>○地域の実態やお互いの意見交流から、より効果的な相良村総合戦略プランを考えることができる。 【思考・判断・表現】</p>
9	1	<p>○前時で考察した各班における戦略プランを練り直し、各班の相良村総合戦略プランを完成する。</p>	<p>○前時の意見交流をもとに、これまでの戦略プランを練り直し、もっとも効果的な相良村総合戦略プランを作り上げることができる。 【思考・判断・表現】</p>

5 本時の学習

(1) 本時の目標

相良村にある日本遺産に認定された歴史文化遺産についての「保全」・「活用」・「発信」戦略プランをもとに、村の実態を踏まえ、お互いに意見交流し、もっとも効果的な相良村総合戦略プランを考えることができる。 【思考・判断・表現】

(2) 本時の展開

過程	時間	主な学習活動	学習形態	○教師の指導 ・予想される生徒の反応	教材 資料等
導入	5分	1 村長からのビデオレター②から、本時の学習を確認する。 ・相良村総合戦略2-2「交流人口の拡大」について、戦略プランを立ててほしい。	一斉	○相良村の課題に対する意識を高め、地方自治への興味や関心を持たせる。 ・各班で相良村の歴史文化遺産の「保全」・「活用」・「発信」に関する戦略プランをプレゼンしよう。	ビデオレター 冊子
展開	学習課題：我がふるさとの「相良村総合戦略」プランを立てよう。				
	15分	2 各班で考えた歴史文化遺産に関する戦略プランを発表する。	一斉	○各班で考えた相良村の歴史文化遺産の「保全」・「活用」・「発信」に関する戦略プランを発表させる。 ・私たちは、相良村総合戦略として、相良村の歴史文化遺産についての戦略プランを発表します。	プレゼン資料
	中心発問：それぞれの班のプランについて、さらに効果的な戦略プランにするためには、どのようにしたらいいのでしょうか？				
	5分	3 各班の戦略プランに対する課題点や改善点について考える。	班	○各班の戦略プランに対する課題点や改善点についての質問や意見を建設的に考えさせる。	ワークシート
	13分	4 各班の戦略プランに対する意見交流を行う。	一斉	○これまでの様々な資料をもとに、根拠を明確にした上で、より効果的な戦略プランを考えさせる。 ・○班のプランについて、この資料からこんなことが言えますので、～～のようにしたら、もっと効果的になると思います。	評価1
7分	5 GT（相良村総務課長）から、各班の戦略プランについての講評と、さらに相良村の課題を踏まえた上でのこれからの地方自治についての話を聞く。	一斉	○お互いの戦略プランの良さを共有し、相良村の課題に対して、住民として真剣に考えることの大切さや、郷土を愛する心の育成を図りたい。	GT	
まとめ	5分	6 地方自治の大切さについて考える。	一斉	○本時を振り返り、一住民としてどうように地方の政治に関わっていかねばならないのかを考えさせる。	ワークシート

(3) 本時の評価

場面	評価基準 【思考・判断・表現】
評価	A：相良村の実態を分析し、お互いの意見交流を生かして、しっかりとした根拠を基に、もっとも効果的な相良村総合戦略プランを考えることができる。 B：相良村の実態を踏まえ、相良村総合戦略プランを考えることができる。